Red Cross Kyoto

赤十字きょうと

2024
6月号

Interview
赤十字レスキューチェーン京都　平野さん

Topics
令和６年能登半島地震の災害救護活動について

〈輪島市役所内に設置された「ホッとルーム」でのこころのケアの様子〉

日本赤十字社
京都府支部の
HPはこちら⇒

ご支援・ご協力のお願い

皆様のご支援が、私たちの力に。

赤十字では、皆様からお寄せいただいた資金を活用し、「苦しんでいる人を救いたい」という皆さまの想いを担い、365日とぎれることなく活動を続けています。引き続き、皆様からの温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

●地域でのご寄付
年間を通じて府内各市区町村の日赤窓口でご寄付いただけます。

●寄付金付自動販売機の設置によるご寄付
自動販売機の売上げの一部をご寄付いただく方法です。設置に要する費用は全て販売会社が負担します。
新規設置だけでなく、更新設置も可能です。

●口座振替によるご寄付
日本赤十字社ホームページの「寄付する」からお申し込みください。

●遺贈・相続財産等のご寄付
詳細は当支部(075-468-1182)までお問い合わせください。

●クレジットカードによるご寄付
日本赤十字社ホームページの「寄付する」からお申し込みください。

活動資金へのご協力ありがとうございました

日本赤十字社京都府支部の活動は、皆様のご支援により支えられています。
令和５年５月から令和６年３月の間に、10万円以上のご寄付をいただき、掲載についてご了承いただいた会員の方々をご紹介いたします。

●上京区
立原　貴代　様
●左京区
岩本　馨　様
太田　貴勝　様
京都在籍能楽師有志　様
添田　侑　様
出竿　賢治　様
藤田　昂志　様
丸田　庸介　様
株式会社美也古商会　様
●中京区
紀田　貢　様
京都医健専門学校　様
株式会社京都ホテル　様
株式会社KUOE　GLOBAL　様
玄海　外之　様
医療法人これえだ皮フ科医院　様
西田　周平　様
マーチャオ&ウェルカムグループ　様
明治安田生命保険相互会社　京都支社　様
矢吹　嘉治　様
●東山区
石室　良孝　様
●下京区
京都フィナンシャルグループ　様
日本ホールディングス株式会社　様
湯口　翼　様
株式会社ロマンス小杉　様
ワタキューセイモア株式会社　様
●南区
京都ケアサービス株式会社　様
株式会社三笑堂　様
株式会社白川工業　様
株式会社セレマ　様
株式会社大同商会　様
●右京区
大辻　啓夫　様
株式会社浄美社　様
●西京区
エステックジャパン株式会社　様
佐川　典正　様
●伏見区
石黒メディカルシステム株式会社　様
京都府軽自動車協会　会長　佐藤　徹　様
小西　和代　様
清水　トモエ　様
三原　芳一　様
村上　雅巳　様
株式会社ヤマモトホールディングス　様
●宇治市
松谷　之義　様
医療法人保田歯科医院　様
山村　祐嗣　様
●亀岡市
津川　高夫　様
●福知山市
山下　裕　様
●宮津市
河嶋　義孝　様
医療法人山根医院　理事長　山根　行雄　様
●舞鶴市
ファイン. 住宅株式会社　代表取締役　久保　勝義　様
レンタカーパートナー株式会社　様
●八幡市
丸岡組　丸岡　光弘　様
●木津川市
浪越　幸男　様
●大山崎町
成田　渉　様
●久御山町
五洋精工株式会社　代表取締役　藤原　健介　様
●精華町
株式会社アイエス　様
●富山県富山市
秋月　有紀　様

(地区順・五十音順)

令和６年度　日本赤十字社京都府支部　一般会計歳入歳出予算

歳入の部	予算額(千円)	内訳
社資収入	286,000	皆様（個人・法人）からの社資、寄付金など
委託金等収入	5,648	献血推進事業に係る京都府からの委託金
繰入金収入	2,830	管内施設からの負担金繰入など
雑収入等	143,285	講習会負担金収入、前年度繰入金など
歳入合計	**437,763**	

歳出の部	予算額(千円)	内訳
災害救護事業費	28,621	災害救護に係る経費、救護資機材等の整備費、救護看護師の養成経費など
社会活動費	77,207	救急法、水上安全法、幼児安全法等の講習開催経費。赤十字奉仕団や青少年赤十字の育成費など
国際活動費	1,314	国際開発協力事業に係る経費
指定事業地方振興費	4,500	災害救援設備の整備に係る経費など
地区分区交付金	37,800	地区分区の事務費及び事業費
社業振興費	53,851	会費の募集、広報活動に係る経費など
基盤整備交付金・補助金支出	21,460	医療施設や血液センターの基盤整備のための交付金
積立金支出	71,368	施設整備交付金積立金など
本社送納金支出	41,475	本社の国内外の活動に係る経費
総務管理費	64,707	光熱費、事務費など
資産取得及び資産管理費	28,991	新庁舎解体費、庁舎の維持管理費など
予備費	6,469	
歳出合計	**437,763**	

日本赤十字社 京都府支部
Japanese Red Cross Society
編集・発行：日本赤十字社京都府支部　〒602-8044　京都市上京区下立売通油小路西入東橋詰町178
TEL 075-468-1182　FAX 075-468-1789
ホームページ https://www.jrc.or.jp/chapter/kyoto/

JRCの募金活動

1月27日(土)四条河原町交差点にてJRC高校生メンバー及び指導者の計40名が令和６年能登半島地震義援金の街頭募金活動を行いました。**「遠く離れていても私たちに出来ることが沢山あります！一緒にやりませんか。」**メンバーの熱い呼びかけに多くの方が足を止めご協力くださり、およそ**４時間の活動で525,640円の募金が集まりました。**

募金活動中には、石川県出身や輪島市出身の方から「地元なんです。ありがとうございます。」と声をかけられる場面もありました。今回頂いた義援金は、現地の配分委員会を通じて全額が被災者のもとへ届けられます。募金にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

災害救護活動　～令和６年能登半島地震～

救護班**11**班、日赤災害医療コーディネートチーム**4**班、DMAT**10**班、こころのケア班**2**班が現地で活動しました。(石川県輪島市、珠洲市)

緊急搬送

巡回診療

避難所アセスメント

感染症対応

救護所診療

こころのケア

赤十字レスキューチェーン京都とは…

防災や災害救護を専門とする、日本赤十字社京都府支部直轄の特殊奉仕団（ボランティア団体）

発　足：1996年（平成8年）　阪神淡路大震災（1995年）の教訓を受け、翌年に発足
組　織：京都府下に６支会（舞鶴、福知山、亀岡、京都、長岡京、宇治）
会員数：63名（2024年３月現在）

「主な活動実績」

- 防災救護倉庫の設置・整理
- 防災訓練への参加
- 災害救護活動への支援
  （救護班への帯同、後方支援）
- ボランティアセンターでの
  被災地支援活動

救援物資の集積、
被災地に向けての搬送準備

2011年　東日本大震災
被災地支援活動

倉庫の整理中…

1997年　府下で第１号となる
防災救護倉庫の設置（宇治市）

うがいの励行など、衛生管理

2013年　台風18号　被災地支援
（福知山市災害ボランティアセンター）

過去にはボランティアセンターの
開設・運営訓練や、
救護所支援訓練への参加も！

様々な防災訓練に参加し、
いざという時のために備えています。

「部会活動もあるよ！」
- 傷病者メイク研究部会
- ロジティクス研究部会
- 野外活動研究部会

赤十字
レスキューチェーン京都
棟方 禎久 さん

▶活動の履歴
2024年1月８日～12日 第１救護班
2024年2月23日～27日 第10救護班
▶活動場所
石川県輪島市

“救護班の一員として、２回目の派遣を終えた棟方さんにインタビューを行いました！”

２回目の救護班派遣ではどのような活動をされましたか。
今回も基本的には、車両運転、救護班の生活全般の支援が主な活動でした。ただ、前回の１月8日からの派遣に比べると、生活環境や食糧事情は良くなっており、食事の準備も含め救護班員が各自で自己完結できる部分も多かったです。そのため、他の部分で助けが必要なところを都度サポートするようにしていました。

棟方さんは東日本大震災の時も救護班に帯同されたのですよね？
東日本大震災の時は、発災１週間後に救護班の一員として宮城県石巻市に入りました。石巻赤十字病院を拠点として、その周辺の避難所巡回を行いました。その時は真っ白な紙に避難所のあらゆる情報をつらつらと書いていたのですが、今回は避難所アセスメントシートがあり、その項目通りに調査をしていたので、新しい部分も感じました。

災害救護活動の形も日々進化していることを実感されたんですね。
やはり一番は、情報のデジタル化が進んだことを凄く感じます。今回も活動報告等はデータで提出する形でした。一方で、データを入力・管理するクラウドが複数あることで、情報収集に戸惑った面もありました。今後はますますそういった部分の検討がされ、より効果的な救護活動の形に変化していくのだとも思います。

平野さんはどんなきっかけで？

僕が入ったのは、救急法救急員や指導員の資格を取ったりしたときだから、やっぱり阪神淡路大震災のころですね。もともとは救急法の奉仕団にいたのですが、そこで当時の僕の救急法の先生だった人に誘われて、僕の赤十字人生が始まりました。救急法の資格を取ろうと思ったのも阪神淡路大震災があったのと、元々結構山に行ったりスキーに行ったりと、アウトドアの趣味があったので、勉強しといたらなにかの時に役に立つかなあと思って。

そうだったんですね。日頃の活動は？

例えば京都府支部と連携して防災訓練に参加したり、災害救護活動への支援を行ったり、部会活動というのもあります。部会は主に三部会で、傷病者メイク研究部会、ロジスティクス研究部会、野外活動研究部会があります。あとは、宇治川マラソンでの救護活動だったり、防災倉庫の管理も活動の一部です。京都府の赤十字では一九九七年に宇治に第一号の防災倉庫が設置されました。資材を一か所に集約するのではなく、分置しようという話になったんです。そこで、普段僕たちが資材管理したり、必要なものを提案したりしています。

あとは、京都府社会福祉協議会と連携し、各地域のボランティアセンターの中に入って活動させてもらったりもしています。例えでいうと、二〇〇四年の京都府北部地域に発生した水害の時は、大江町・宮津市でボランティアセンターの立ち上げ支援をし、高圧洗浄機での路面の洗浄や手洗い場の確保をしました。救護所の運営では、現場の医師や看護師の指示を聞いて環境整備などに尽力しました。ここで大事なのが、「小さな親切、大きなお世話にならないようにしましょう」ということです。これは今回の令和六年能登半島地震での活動でも感じたことですね。

現地で、水を汲みに来た方のお手伝いをする、赤十字レスキューチェーン京都のメンバー棟方さん（石川県・輪島市）

今回の地震での赤十字レスキューチェーン京都さんの活動は

救護班の帯同と後方支援が主な活動です。実は、救護班の帯同というのは今まであまりしたことがない活動でした。ですが、今回のように遠くのほうの活動になってくると、荷物も多くなるし道が悪かったり、バックアップが必要になってきます。救護班が本来の仕事ができるよう、ある程度の知識は持っている我々が帯同させてもらいました。

なるほど、縁の下の力持ちですね

今は、昔みたいに自分たちだけで現地にいくというのはもうできないと思います。ボランティアというのもかなり一般化されてきましたし。仕事や家庭があって現地に行けない人は、こっちでできることをやろうと、物資の積み込みや食事の準備などをするように変わってきました。

活動の内容もだんだん変化しているんですね

災害の種類もだんだん変化してきて、今回だったら高齢化や過疎化が進んでる地域ならではのことがあったと思います。救護所の設置ではなく巡回診療での活動だったとか。新しい課題もたくさん見つかったと思います。だから我々もそうした変化に合わせて活動の中身を少しずつ変えていかないとと思っているんです。

最後に今後の活動について

まずは、新型コロナウイルス感染症の影響で二、三年活動が停止してるのが大きいですね。メンバーたちも、一年一年生活のパターンも変わっていきます。今回の地震でもいざ活動しようと思ったら六人くらいはすぐに来れるけど、なかなか集まらなくて。だから、メンバーを若返らせること、地域活動を動かすことなどもしていかないとと思っています。併せて、先ほど言ったように我々に期待されてることもだんだん変わってきていますので、専門知識も必要になってきます。研修会とかもやらないといけないですね。僕らももう一回復習しないといけないと、今回の地震で特にそう思いました。

「小さな親切が、大きなお世話にならないように」

Interview 8

赤十字レスキューチェーン京都 代表

平野 正人 さん

赤十字レスキューチェーン京都は、1995年の阪神淡路大震災の教訓をきっかけとして、災害時の救助だけでなく、後方支援や生活支援まで視野に入れた「総合的な活動」ができる組織として、1996年に発足しました。その中心となり、令和６年能登半島地震においても後方支援等で多大なるご協力をいただいている、赤十字レスキューチェーン京都の代表、平野さんにお話を伺いました。

赤十字レスキューチェーン京都ってどんな団体ですか？　立ち上げのきっかけなど…

赤十字レスキューチェーン京都の立ち上げのきっかけは一九九五年の阪神淡路大震災です。それ以前も、救急法をベースにした奉仕団や災害救護を専門にする奉仕団があったんですけど、それぞれの得意分野でバラバラに活動してたんです。でも、阪神淡路大震災の時に、熱い気持ちを持っていても結局できることは限られているということを痛感し、京都府下の災害関係の赤十字奉仕団が「ひとつの団体」になって動けるよう出来たのが、赤十字レスキューチェーン京都です。そこから翌年には六つの支会ができ、徐々に組織がまとまっていきました。赤十字レスキューチェーン京都は、発災直後の救助だけでなく、後方支援や生活支援まで視野に入れた「総合的な活動」ができる組織です。京都府の被災を想定して「府内の全市町村」に組織を広げていこうと活動しています。